



白登苗圃の設立

植樹につかうマツ苗は従来大同県にある国営苗圃の一面を借りて生産していました。環境林センターの苗畑ではアンズなど広葉樹の苗をつくっていますが、土壌の性質があわず、針葉樹はうまく育たないのです。

自前の苗畑で針葉樹苗を育てるのがかねてからの課題でしたが、2004年秋、ようやく大同県で7haの土地の使用権を取得することができました。冬になる前に急いで整地をおこない、2005年春から本格的に針葉樹（マツ、トウヒ、イブキなど）の育苗をはじめました。たくさんの苗木が育ち、育苗方法の実験などもおこなっていましたが、後述するように現在は緑の地球環境センターに移転しました。